

## 令和6年度第2回金沢市食品ロス削減推進協議会議事要旨

◇日 時 令和6年11月19日（火） 10:00～11:30

◇場 所 第二本庁舎2階 2203会議室

◇出席者 (順不同、敬称略)

会長 池本 良子 (金沢大学名誉教授)  
副会長 田中 弘美 (北陸学院大学健康科学部教授)  
今井 喜久子 (市民公募)  
上田 久美子 (金沢市校下婦人会連絡協議会副会長)  
楠部 孝誠 (NPO法人いしかわフードバンク・ネット理事)  
鍛治 一雄 (石川県スーパー・マーケット連絡協議会代表幹事)  
志賀 嘉子 (一般社団法人石川県食品協会)  
杉山 朋美 (北陸大学薬学部准教授)  
橘 宏和 (市民公募)  
西田 哲次 (金沢商工会議所常務理事)  
林 貴江 (石川県生活学校連絡会)  
中村 明仁 (金沢市旅館ホテル協同組合)  
宮野 義隆 (石川県農業法人協会常務理事)

(欠席者) 野地 恭平 (環境にやさしい買い物推進協議会)  
鍋島 盛雄 (石川県飲食業生活衛生同業組合理事長)

事務局 越山 充 (金沢市環境局長)  
三傳 敏一 (金沢市環境局ゼロカーボンシティ推進課長)  
杏谷 英恵 ( 同 課長補佐)  
松田 瑞穂 ( 同 課企画庶務係長)  
長田 麻由 ( 同 主任)  
坂本 和奏 ( 同 主事)

◇会議次第

1. 開会
2. 議事
  - (1) 金沢市食品ロス削減推進計画の改定方針 (案)
  - (2) 令和7年度食品ロス削減推進事業 (案)
3. その他
4. 閉会

越 山 局 長	<p><b>【1. 開会】</b></p> <p>委員の皆様にはお忙しい中ご出席を賜り厚く御礼申し上げる。また、日頃から本市の環境行政に格別のご協力とご理解を賜り重ねて感謝申し上げる。</p> <p>さて、今年6月に農林水産省より令和4年度食品ロス量の推計値」が発表された。日本全国での食品ロス量は、令和4年度において472万トンとなり、これは推計開始以来最少の数値とのことである。また、事業系食品ロスがその半分の236万トンで、2030年度までに2000年度から半減するという目標を既に達成した。全国的に食品ロス対策が着実に進められていると感じている。</p> <p>本市でも、食品ロス量を2030年度までに2018年度比で20%削減するという目標を設定をしたが、令和4年度時点で既に達成した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響や昨今のインバウンド需要の高まりを踏まえると、この結果に甘んじることなく、今後も市民、事業者、行政が一体となって食品ロス削減への意識を高く持ち、より一層積極的に取り組んで行かなければならない。</p> <p>本日は、食品ロス削減推進計画の改定方針案及び次年度の事業案について事務局より説明をさせていただく。限られた時間ではあるが、委員の皆様には忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げ開会の挨拶とさせていただく。本日はよろしくお願い申し上げる。</p> <p><b>【2. 議事】</b></p> <p>(1) 金沢市食品ロス削減推進計画の改定方針（案）</p> <p>事務局 (資料1をもとに説明)</p> <p>一 同 質問、意見なし。了承。</p> <p>会 長 来年度に当協議会で新たな食品ロス削減推進計画の議論をすることになる。その際はまたいろいろご意見をいただきたい。それでは計画の改定方針案については、事務局案どおりに進めるのでよろしくお願い申し上げる。</p> <p>(2) 令和7年度食品ロス削減推進事業（案）</p> <p>事務局 (資料2をもとに説明)</p> <p>会 長 昨年から始めたバスツアーの継続実施と新規に啓発教材を作成するという説明であった。昨年の食品ロス削減全国大会で実施した自治体職員向け見学会が非常に好評だったので、そのようなことを独自でできないか、対象は事業者か市民かというところで、当協議会でも意見交換したところである。結局今年度の参加者は親子連れが多く、市民向けの啓発としてはとても面白いツアーだったと思うが、皆さんいかがか。</p>
---------	--

委 員	金沢工業大学（以下「工大」という。）学生によるアイデアの具現化について。教材を制作し出前講座などで活用すると資料にあるが、教材を制作する期限は決まっているか。
事 務 局	教材の具体的な制作スケジュール等は立てていない。完成した教材は市職員が行う出前講座で使う他、ホームページ上で素材を公開して誰でも印刷して使えるようにしたい。
委 員	できたら使わせていただきたいと思ったことと、もし早く完成すれば次年度の食品ロス削減バスツアーで試してみても良いかと思った。
事 務 局	教材の制作スケジュールは未定だが、バスツアーに間に合うようであれば使うことも検討したい。
委 員	食品ロス量の計算方法はどのようにしているのか。
事 務 局	ごみ処理基本計画の改定年の前年に行うごみ組成調査のデータが元になっている。事業系と家庭系のごみの一部を取り出し、そこで実際に食品ロスがどれだけの割合で入っているか調査し、ごみ総量に食品ロスの割合を乗じて食品ロス量を推定している。
会 長	<p>令和4年度の食品ロス量はコロナの影響があったときの値である。最近の家庭系は物価高などにより引き続き減っているのではないかという話があった。それは全国的にも同じことが言える。ただやはり事業系が非常に不透明である。令和4年はこんなに観光客は来ていなかつた。</p> <p>要するに、外食の人数が圧倒的に増えたので、ごみ総量が増えていると思う。ごみの中の食品ロスの割合が減少したのは努力の結果だと思うが、総量で考えると少し苦しいことになりかねないので、計画を立てときはやはりそれも考慮した方が良い。</p>
事 務 局	全国的に見れば令和4年度の段階で、コロナ禍の影響もあり、事業系の需要が少なくなった分ごみの量は減った。ただ、今回食品ロス削減推進計画の改定にあたっては、ごみの組成調査ということまではできないので、基本的に令和4年度の数値、あとはコロナ禍からの脱却の影響を踏まえた上で数値目標の設定ということになろうと思う。事業者は非常に努力して食品ロスが減っているというのが現状であると思うので、市としては、家庭系のごみ・食品ロスの両方を減らしたいと考えている。実際に数値目標を設定する際には、そのようなことも踏まえて考えるべきである。
会 長	事業系の食品ロス総量ではなく、事業系のごみ排出量が令和4年は落ち込んでいたところ、それがまた増えている事が予想されるのでその割合を考慮して決めたらどうか、という話である。ただ、去年まで「食べきれな

	<p>かつた料理の持ち帰り事業」は市民が出す事業者からのごみを削減しようという目的で一生懸命力入れてきた。市民の啓発によって事業系のごみも減らすというスタンスを継続して欲しいと思う。ただどうしても避けられない、インバウンドのごみがやはり増えているのではないかと思う。観光にくる外国人がどんな飲食をされているのか分からぬがとにかく人が多い。</p>
委 員	<p>外国人旅行者が多い。コロナ渦とは全然違う状況である。</p>
会 長	<p>飲食店もとても増えているし、予約も取れない状況である。その辺りについても考慮してほしい。もしかしたら次回のごみ組成調査はすごい量になるかもしれない少し気にしてる。</p>
委 員	<p>2点ある。まず1点目、食品ロス削減バスツアーについて。昨年から私達の会社にも受け入れの相談があったが9月では対応できないため、他の事業者にやっていた経緯がある。このような啓発事業は私達の会社内でも取り組んでおり、いろいろな学校や教育機関から受け入れをしている。とてもいい取り組みだと思うが、金沢市が段取りし29名の方に食品ロスの必要性を啓発したというのは効果としてとてももったいないと思う。一法人でも29名の方の意識を変えるということは、1回ぐらいのイベントでできるような感覚でいる。食品ロスの事に詳しい方々、目的意識を持って実施している当協議会の事業としては、少し効果が小さいのではないか。取り組みとしてはいいが、これを対象者だけに効果を求めるではなく、やはりここからどう広げていくかがとても重要な部分だと思う。もう、時代的にリアルで何かをするというのはきっかけでしかないというと我々は考えているし、その後の効果等を見込んだ形でこのバスツアーを企画することがとても重要なことだと考える。参加者アンケートの中での「もうひと工夫あったらいいな」という意見あったが、どういうことを希望されていたのか。参加者を見ながらもっとこういう工夫ができると感じた事があったら教えていただきたい。</p>
	<p>次に2点目、啓発教材について。横浜市、愛知県でも同じ取り組みをされているが、このすろくを使用して食品ロス削減の意識を高めるというところにまで私は少し繋がらない。「横浜市と愛知県は効果があったから取り入れましょう」という考えだと思うが、どのような効果があったか教えていただきたい。以上、この2点について教えていただきたい。</p>
事 務 局	<p>まずバスツアーの工夫について。具体的にはバスツアーの前に簡単な課題を与え、ツアーを通して課題を解決するという流れになるとより良いのではないかと感じた。</p>
委 員	<p>食品ロス削減バスツアーに参加するという時点で、食品ロス削減に興味がある方である。あまり繋がらないと感じる。</p>

委 員	私もバスツアーは市が企画しており、個人向けというのは非常にもったいないと感じる。子ども対象ならば学校を利用するとか、自然学校を利用する等の方法もあると思う。発信先を個人に向けてというのは一本釣りのようで非常にもったいない気がする。またバスツアーに来ていただく方が地域に発信できるようなシステムでないと裾野が広がらないのではないかと思う。市が予算付けしてやるのであれば、やはりここはもう少し大きな団体を巻き込んで次につなげるような企画・プロジェクトを立てていく方が効果的だと思う。
事 務 局	<p>確かに、このようなバスツアーという企画であると参加者が限定されるため、そこからさらに情報発信するのは必要だと思う。また小学校や中学校はいろいろな取り組みを行っており、スケジュール的にも忙しいと聞くが、協力していただけるか考えていくべきと思う。</p> <p>今年度初めてバスツアーを行ったのは、先ほど会長の方からもあった通り、去年の食品ロス全国大会での自治体職員向けの研修会を行った。その取り組みを引き続き続けていきたいということから今年度はバスツアーを企画した。本日皆様からの意見を反映させて、また次回もよりよいものになるようにしたい。</p> <p>すみろくについては、他都市のホームページに掲載されている事例を紹介しているがそれぞれの自治体でどれだけの効果があったかの確認まではできていない。食品ロス出前講座に行ったときに、説明を聞くだけでは参加者も飽きてくる。聞いてるだけよりはすみろくという教材を使って皆様に楽しんでいただければ座学だけよりもいいのではないかと思った。</p>
委 員	教材を作ることは決まってはいるが、その教材がすみろくとは決まっていない、ということか。
事 務 局	プロジェクトデザインで提案があったのはすみろく作成である。
委 員	それを教材として当協議会がどこまで権限持っているのか。すみろくは不採用、他の教材にしてくださいというのはできるのか。
事 務 局	プロジェクトデザインの提案を事務局として取り組みたい、ということで案を出させていただいた。
委 員	工大のプロジェクトデザインに取り組む学生がいて、そこで食品ロス削減の啓発教材を作ろうというプロジェクトがあるということか。企画は大学生がするけれど作るのは当協議会、ということか。
会 長	プロジェクトデザインでこのような提案をされたが、今のところ学生が作るわけではない。細かい企画ではなく「すみろくを作ったらどうか」というところまでで終わった。私は工大プロジェクトデザインの提案を受けてするのであれば、学生にも細かい企画から参加してもらい、完成後は出

委 員	前講座に学生が一緒に行って使う他、工大でそのすろくを使うイベントを開催してもらえばとても意味があると思う。
事 務 局	<p>プランニングだけ学生にやってもらいあとは大人が動くのでは一貫性がない。学生にもあまり良くない。少し時間はかかるかもしれないが、大学と連携するというのであれば学生にちゃんとやってもらわないといけないと思う。</p> <p>若者・子ども向けのものとなっているがターゲット絞らないと結構難しいと思う。そもそもだが、この食品ロス削減という課題を認知している・理解している・行動しているのは、どれくらいの割合なのか。ちゃんと分析をしているのか。例えば子ども達に理解してほしいのか、理解から行動に移してほしいのかを設定をしてあげないと工大の学生もかなりぶれてしまう。小学生に対しての教材ならば学年によって教材は変わってくるので、そういったことも加味してほしい。例えば何年生用に作るというのであれば教育委員会も巻き込んで理解する段階まで持って行くようにしないと、ホームページに掲載しても誰もプリントアウトしないと思う。せっかく作るなら効果がある方がいいと思う。</p>
委 員	教材の対象は若者・子どもで、食品ロス出前講座で活用することを前提にしたものである。例えば児童クラブに出前講座行った場合、まだそこまで食品ロスの意識がないお子様が多いため遊びながら楽しく学べるような教材が必要である。教材を何十セットも作るのは経費の関係もあるので難しく、プリントアウトすれば誰でも使えるような形で提供したい。
事 務 局	どれだけプリントアウトされたか把握できるのか。
委 員	ホームページで教材を掲載している事を伝えた数は把握できるが、各自で自由に検索して印刷されてたものは把握できない。
事 務 局	このようなツールが不足していて、食品ロス削減の意識が高まらない、というわけではないと思う。例えば児童クラブであれば、きちんと児童クラブの仕組みを理解しなくてはいけない。児童クラブの方々は忙しいので、どういうシーンで、どういう教材が必要なのか、どういう教え方が効果的なのかまでこちらが考えてあげるべきである。こういうふうにこの教材を使って授業してください等フォーマットを用意してあげる必要がある。そうまでしないと、なかなかプリントアウトしようとならないと思う。つまり、スタートとゴールまでこちらが考える必要がある。
会 長	おっしゃるとおり、単に教材だけホームページに掲載するのではなく、これをどういうふうに活用して欲しいかを示した使い方マニュアルのようなものも作る必要があると思う。
会 長	教材を作るときには、やはり教育委員会との連携が重要だと思う。横浜

	<p>市や愛知県と同じようなものを作っても仕方ないと思うので、「地域教育」との抱き合わせで金沢らしいものができたらしい。金沢のことを知りながら食品ロスも学ぶということができれば、教育委員会としてもメリットがあるのではないかと思う。</p> <p>出前講座に行くときは、市の職員が行かれるのか。工大との連携は授業が終わった関係で難しいのかもしれないが、もしかしたら提案した学生がとても乗り気になるかもしれないで課外活動として出前講座と一緒に行きませんかみたいなことを、先生を通じて声掛けしてもいいような気がする。</p>
事務局	<p>このプロジェクトデザイン制度が企画提案までなので、そこから1歩先に進むときはこちらの方から声かけをしていかないと認識している。学生と連携するのは良い事だと思うので、そのような形でできるかできないかプロジェクトデザインを実施している担当課と検討したい。</p> <p>また先ほど金沢らしさの話があった。冒頭会長の方からも話にあったがやはりインバウンドは金沢の特徴的な話だと思う。さらに金沢については食文化条例があるので、そのような要素も金沢らしさとして取り入れたものにしたい。</p>
委員	<p>私もPTA等いろいろな活動をしていて、子育て世代の親御さんや子ども達と接する中で感じることは、大人が教えたいことを「教え込まれてる感」があるということ。特に「金沢らしさ」について、金沢市民である私が子どもに伝えたいことではない。そういう金沢らしさというのは、学校であったり、文化であったり、そういうところで体感しながら、養われるものだと思う。おそらく私たちが思う金沢らしさと子ども達が思う金沢らしさは違う。</p>
委員	<p>ターゲットが子ども達であれば、子ども達は何に興味があるのか知る必要がある。例えば、今の子どもたちは動画でいろいろなことを学んでいると思うのでそういうところからアプローチしていくとか。つまり、子ども達に食品ロス削減の大切さを知って欲しいのであれば、私たちや学生がいろいろ言うよりも子ども達がどういうことで興味を持ってくれるのかが一番重要だと思う。毎回大人の意見や考えを押し付けようとして大失敗していると思う。特に防災等は結構難しくて、食品ロスも同じジャンルだと思う。中途半端なものだと、いろいろなものの中に埋もれてしまう可能性が高いのでしっかりと考へる必要があるように思う。</p>
委員	<p>今の教材の話も出ていたが、実際教育現場で食品ロスを教えている時間があるのかどうか、分かれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>総合学習の中で何らかの形で入っているのではないかと思う。</p>
委員	<p>食品ロスの割合は分かっているのか。つまり食品ロスには過剰除去と食べ残し、直接廃棄があると思う。その中でどれが一番多いのか把握されて</p>

	<p>いるか。そこが分からないと対策のとりようがないように思う。全て漠然とした対策にみえる。「食品ロスを減らしましょう」と言っているが、例えば、直接廃棄が多いならばフードドライブを重点的にやらないといけないし、食べ残しが多いならば例えば子ども達に食べ残さないように教育する必要があると思う。当協議会で話し合う際には、まずは食品ロス対策の中でどこが大事なのか、またどこに力を入れようとしているのかを明確にしなければいけない。ターゲットがどこにあるのか等がないと、次の目標値を削減するとき、どこからテコ入れるべきなのははっきりしないと思う。組成調査は頻繁にできないのは分かるが、食品ロスの割合をしっかりと把握した方がそれこそ金沢らしさになるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>資料1で食品ロスの現状を示している。令和4年度の燃やすごみ中の食品ロスの割合は家庭系が9.2%、事業系が22.3%であった。家庭系9.2%の内訳は手つかず食品が5.1%、食べ残しが4.1%。事業系22.3%の内訳は手つかず食品が13.3%、食べ残しが9.0%であった。手つかず食品はフードバンク、フードドライブが対策になってこようかと思うし、食べ残しは持ち帰り事業などが対策になろうかと思う。</p>
委員	<p>とてもいい指摘だと思う。ただ、おそらく工大の学生も食品ロス削減という大きなテーマに対しそろくという教材を提案されたと思うので、私は食べ残しなのか、手つかず食品なのかという細かいテーマを与えてあげればもっと具体的な提案してくれたのではないかと思う。このようにきちんと食品ロスの分析をされてるんであればいい事だと思う。</p>
	<p>食べ残しと手つかず食品の両面でアプローチしていくだろうが、ただ子ども達に普及するときには、食べ残しに直接アプローチできる教材であれば指導しやすくなる思う。</p>
	<p>また今年の食品ロス削減バスツアーにおいておそらくJA金沢市の方からも収穫ごとの食品ロスについての話がされたと思う。そもそも食品ロスに収穫物は入ってない。ここでそういう話をしても何か違うんじゃないかという話は、去年の協議会のときにも話をした。「さつまいもを掘って終わり」そんな感じになっていないか。</p>
事務局	<p>「さつまいもを掘って終わり」というよりは、そういった体験の要素があった方が参加者を募りやすい。見学だけよりそういった体験も参加者は求めている。「子どもに芋ほりを体験させてあげたかったとか」という理由で参加した方もいらっしゃる。芋ほり体験が食品ロスに興味がない方たちの参加のきっかけにはなっている。</p>
委員	<p>参加者アンケートに参加者の食品ロスの現状も書いてあるのか。例えば、食品ロス削減を知っているのか、理解しているのか、常に考えて行動しているのか、そういった質問されてるのか。</p>
事務局	<p>参加者アンケートでは参加したきっかけを聞いており、「食品ロス問題</p>

委 員	についてこれからできることを考えていきたい」「子どもに食品ロスの問題について知ってもらいたい」という回答があった。
事 務 局	このバスツアーは来年も継続するのか。もっといい方法ありそうである。
委 員	事業の継続性というところでもう少し様子みたいという気持ちがあり、今年度1回目、令和7年度に2回目という形で進めたいと思う。
委 員	私はさつまいも掘りが悪いと言っているわけではなく、次に繋がるようなものにしないと駄目じゃないかと思う。それを考えるためには何をターゲットにするのかをはっきりさせる必要がある。芋ほりとかツアー 자체は悪くない。食品ロス削減との繋がりさえ考えているのであれば問題ないと思う。明確ではないその辺りをはっきりさせるべきという意味である。芋ほり自体を否定しているわけではない。
委 員	私はバスツアー 자체を否定している。
会 長	バスツアーで一体何を伝えたいかということだと思う。農地から出るものは食品ロスにはカウントはされていない。また農地から出るもの削減を参加者ができるわけでもないと思う。趣旨が食べ物の大切さを教える事ならば、たくさんの食べ物が燃やされて処分されている事等とセットで伝えてもいいのかと思った。
委 員	私たちの校下では、中学生が規格外のレンコンを薄くスライスして蓮根チップスを作つて公民館で販売した。当初、衛生上の問題についていろいろ言われたが、油で揚げて、小袋にいれて…こういうかたちで販売したい、ということをちゃんと保健所にも連絡してきちんと対応した。正規の値段で売れるレンコンは取れたうちの何%、ひどい時は半分くらいだという。捨てられ腐って置いてあるものに気づいた子ども達が、これを何とかしたいという想いから始まった。学校も一切関係なく、その子たちが考えて行動したことで、周りの大人にも良い影響があった。子ども達が自発的に問題意識を持って取り組んだというところが良かった。誰かに言われたからやるのでは駄目だと思った。
委 員	40万人の皆さんに食品ロスを知つていただくというのが本筋であると思う。もう少し戦略的に考えてターゲット別の戦術みたいなものも考えてもいいかもしれない。今年度の反省を受けて次年度は子ども向けに開催するのも良いとは思う。 令和4年の食品ロス量の減少はコロナの影響が大きいという推測される。そもそも食品ロスは私達の取り巻く環境要因によってかなり変わる。今は物価が上昇しているが、賃金が上がるとその消費意欲が高まることがある。もちろん数値目標は大事だと思うが、非常に経済の影響を受けやす

	<p>い事は考える必要がある。</p> <p>また、食品ロス量と言われても誰もよく分からぬことがある。ごみ捨てガイドブックに市民1人当たり1日の食品ロス量が書いてあつた方が市民の方が認知しやすいのではないか。</p> <p>それからもう1つ。やはりもう少し経済局と連携して欲しい。我々も来年度事業を考えるときに「環境にやさしい企業経営」というのは重要課題の1つに挙げ、「市と連携して」ということをいつも事業計画に書く。我々の会員はほとんど小規模事業者であり、そういった人たちが「大きい企業はできるけど自分のところはできんわ」「関係ないわ」ということではなく、「もうそういうことを取り組まないと、消費者から認められません」みたいなことを教えなければいけない。そうするとやはり具体的な事例が必要である。例えば、食品のロスが出ないような工夫や環境にやさしい容器包装などの事例があつたら良い。</p> <p>市には「いいね・食べきり推進店」と「環境にやさしい買い物推進店」がある。これは一般の方はほとんど知らない。事業者としては何かお店側にメリットがあればもっと裾野も広がると思う。少し難しいかも知れないが、例えば市の制度融資でこういう登録をすれば金利を減免する、或いは飲食店は日本政策金融金庫を使う例が多いと思うので、こういう登録をすれば少し金利が減免されるような制度があつたらいい。もっと消費者にこういうお店が「頑張っていますよ」みたいなものを作つていただけると良い。</p>
会長	1人当たりの食品ロス量をごみのガイドブックに書くというのはすぐにできそうな気がする。事務局において検討いただければと思う。
事務局	「ごみの分け方出し方」に1人当たりの食品ロス量を掲載した方が分かりやすいという話についてはごみ減量推進課に相談させていただく。また経済局との連携については経済局にも働きかけたい。
会長	経済局との連携も協議会では毎回指摘いただいていて、私もぜひやつたら良いと思っている。また進めていただければと思う。
委員	毎年地域の保育園や学校の方が見学に来る。子ども達はバックヤードを見るのはとても楽しそうである。例えばキャベツの外側の葉は森林公园に持つていて動物に食べさせると説明すると興味深く聞いている。スーパーマーケットを市の協議会が利用したいのであれば、いつでもお声掛けいただければと思う。
会長	食品ロスがどこへ行くのかが分かるというのが重要なこと。ぜひお声がけしていただければと思う。
委員	教材製作やバッズツアーの経費がいくらぐらいなのか分からぬが、例えば動画を積極的に活用していくことも案としていかがか。出前講座で少な

	<p>い人数に伝えるのではなく、動画の「使い方」を皆さんに伝えていけば広がりを持たせられるのではないかと思う。例えば学校の先生や家庭の親御さんなどが食品ロスの知識ゼロの状態で自分たちがリードして授業するのではなく、その動画を見ながら途中で止めて議論の投げかけがありそれを子ども達で議論してもらうみたいなもの。知識ゼロのままやれると負担がないし、親としても自分も知識ゼロでスタートして一緒に知識を得られるというのはすごくいい仕組みになるかと思う。動画だと編集できるので例えば小学校低学年用や高学年用、高校生用、シニア用など対象者ごとに分けて提供する。同じ動画のシーンを変えて使えるようにしていくことができると思うのでその動画の使い方をお伝えするといいのではないかと思う。</p>
	<p>テレビ局に依頼すると動画は相当な金額になると思うが、Y o u T u b e rの方だとともしかしたら面白いものができるのではないかと思う。子どもをはじめ、皆さんに響くような動画が作れたりするかなと思う。こちらの皆さんのが普及活動する手間をどんどん省いていきながら新しいことができる、広がっていくといった方向で考えてみても面白いと思った。</p>
会長	NHKで食品ロスの動画を公開しているみたいである。
委員	金沢市内で撮影することでより親近感が沸く。世界や日本の事だけではなく自分の事としてとらえることができる。市町村でやる理由がそこにあると思う。
事務局	NHKについては去年の食品ロス削減全国大会の時にも取材に来られていた。Y o u T u b e rの方と連携すればこれまでの前例にとらわれない形で作ることができるかもしれない。今年度の計画にはそこまで取り上げてはいないが、今後は考えてみたいと思う。
委員	来年度もバスツアーを実施するのであれば、動画を撮影しバーチャルツアーやのようなものにしてみてはどうか。参加できなかった人にとっても学びになると思う。
	あとはもう1点。上田委員から中学生の事例を聞き、やはり食品ロス削減を大人が教えるのではなく、こどもから意見・アイデアを出してもらうのは良いと思った。小学生部門・中学生部門のようにコンペティションのようなアイデアを評価する場を設けるのもありだと思う。市役所にはいろいろなものが展示されており市民が積極的にアイデアを発信していると思った。
事務局	<p>バスツアーの様子をカメラで撮影するのは参加者が映り込まないようにする点で若干難しい面はあるかもしれないが、考えていきたいと思う。</p> <p>お子様が食品ロスの意見を出していくという話は、昨年は食品ロスのアイデアを募集し、応募された作品をエコフェスタで展示したり、優秀者に表彰を行ったことはあった。</p>

		そのような取り組みをまた改めて、何かの契機にできればと思っている。食品ロス削減バスツアーの経費については、おおよそ 15 万円から 20 万円ぐらいを見込んでいる。主な内訳としてはバスの借上料と受け入れしていただく方への謝礼、保険料、事務費などである。
委 員	員	今年度目標の人数はあったのか。
事 務 局		今年度のバスツアーは同日に 2 回開催した。A 班と B 班でそれぞれ 20 人ずつ募集したが、最終的に合わせて 29 名の参加であった。
委 員	員	バスツアーに関する質問であるが、今年の場合 J A 金沢市等の話があつたとのことでその話をした場所はどこか。
事 務 局		さつまいも掘り体験の前にキュアリング施設（貯蔵施設）で話をした。
委 員	員	屋根のあるところだと思う。次年度は子どもとその保護者が対象であるならば、保護者は専門的な話も聞きたいけれども子どもは分からぬといふことがあると思う。そういったときに、子どもはすくろくで食品ロスのことを勉強し、保護者は専門的な話を聞くというように、保護者と子どもと分けて対応するというのもありかなと思った。
事 務 局		親子で参加ということであれば親と子を切り離す形は想定していない。お子様もその保護者も満足していただけるような企画にしていきたいと思う。親子で募集すれば子ども中心になってしまふとは思う。
会 長		来年度の事業に関してたくさんのご意見をいただいた。いただいた意見を取り入れてより効果の高い、良い企画に練っていただければと思う。今回提案された案の具体的な内容はまた来年の協議会に出てくる。 それでは、この令和 6 年度の食品ロス削減推進事業の案について事務局案で概ね了承することによろしいか。
一 同		了承。
		【3. その他】
一 同		案件はなし
		【4. 閉会】
事 務 局		長時間にわたり熱心にご協議いただき感謝申し上げる。 以上をもって、令和 6 年度第 2 回金沢市食品ロス削減推進協議会を閉会する。